

株式会社 建設技術研究所/

株式会社ハビタ
株式会社 Groove Designs
東京カートグラフィック株式会社【テ - マ】 戦略的なインフラマネジメントを担う自治体の体制の確保 / スモールコンセッションの推進 / **グリーン社会の実現** その他（ ）【対象施設】 道路 / 橋梁 / 公園 / 上下水道 / 河川 / 港湾 / 遊休施設 / **その他（都市 まちづくり）**【事業方式】 コンセッション / その他のPFI / **包括的民間委託 / その他（推進体制の構築・運営）**

グリーンインフラに関する官民連携の包括管理・運営サービス

- ◆グリーンインフラを自治体実装する際に重要となる区民の参画に向けて、区民のニーズをシームレスに反映した情報基盤を一元的に整備し、包括管理することで、官民連携を促すとともに区民の参画を推進する方法を提案します。

①提案によって解決することができる課題のイメージ

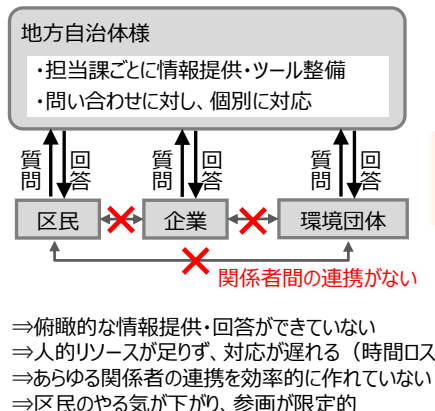
◆解決したい課題

- 宅地が大部分を占める地方自治体でグリーンインフラを推進するためには区民の協働が欠かせないが、官民連携やあらゆる関係者（企業、環境団体等）との連携の仕組みがなく、また区民主体の持続的な体制も構築されていない。
- 官民やあらゆる関係者の連携に必要な情報共有の基盤が一元的に管理・運営されていない。

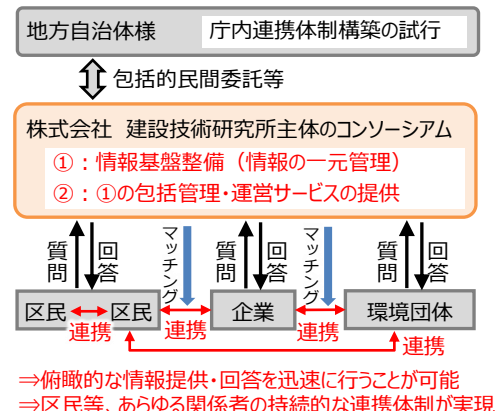
◆想定する自治体規模

- 東京23区などの人口50万人規模、面積35km²程度、住宅地が大部分（7割程度）を占める自治体
- 雨水が浸透しやすい関東ローム層などで形成され、雨庭等のグリーンインフラの導入による流域治水対策の効果が期待できる自治体
- みどりを基軸とした生物多様性や教育、賑わい創出を高く評価しているものの、緑被率が低い自治体
- 環境団体や公園のボランティア団体が多数存在する自治体

【現状の課題】



【解決後の将来像】



②提案内容（その1）

- グリーンインフラに興味のある区民とのワークショップを実施した結果、グリーンインフラ推進の要となる区民が継続・主体的に参画し、かつ活動の輪を広げていくためには、①質問用の窓口、②専門家の指導、③参考となる先行・優良事例の場所、④認証制度、⑤仲間との情報共有の場・効果を体感できる場等が必要であるとの声が多く寄せられた。これらの要素は一事例であるものの、類似する自治体では共通の課題と考えられる。
- これらの要望に対し、グリーンインフラは扱う対象が多分野に跨ることもあり、一元的に対応できる体制が構築されていないケースが多く、そのことがグリーンインフラの自治体実装を遅らせている要因の一つと考えられる。
- そのため、これらの課題の解決策として、【提案1】一元的な情報基盤整備（場づくり）、【提案2】整備した情報基盤を用いた包括管理・運営（ワンストップサービス）の提供、の2点を提案する。

◆提案1：一元的な情報基盤整備（場づくり）

グリーンインフラの推進に関する以下の個別情報および未整備の情報について、区民を始め、あらゆる関係者が迅速、かつ分かり易く情報収集できるように、一元的に管理可能な情報基盤整備を行う。

①質問用の窓口（よろず相談窓口）の開設

⇒グリーンインフラに関する掲示板を開設し、ニーズ把握や質問対応を開始

②専門家の指導体制の確保

⇒雨庭等の専門家による相談体制を確保

③参考となる先行・優良事例の場所の公開

⇒区内のグリーンインフラの先行事例や優良事例の場所をGISにてマップ化。携帯スマホ等の閲覧環境の構築

④認証制度の開始

⇒区専用のグリーンインフラ認証制度を作成（審査基準等を検討）

⑤集える場・効果を体感できる場の提供

⇒廃校利用などの拠点施設確保の検討。そこでの雨庭等の実例を見て体感できる場を整備

◆提案2：情報基盤を用いた包括管理・運営（ワンストップサービス）の提供

提案1で整備した一元的な情報基盤を用いて、自治体と連携しながら実際に管理・運営サービスを提供し、区民主体の持続的な体制を支援することでグリーンインフラの推進を行う。

①質問用窓口への投稿への対応

⇒開設した掲示板への投稿内容に応じて専門部署あるいは専門家等に相談し、回答

②専門家による具体的な指導内容を調整

⇒①への相談や指導者の派遣を調整し、区民協働の体制づくりを支援。情報共有の定例会や発表会（水鳥シンポジウム等）も企画

③参考となる先行・優良事例の場所の更新

⇒④で認証された場所を登録し、公開。公開先は提案1で整備したGISマップを利用

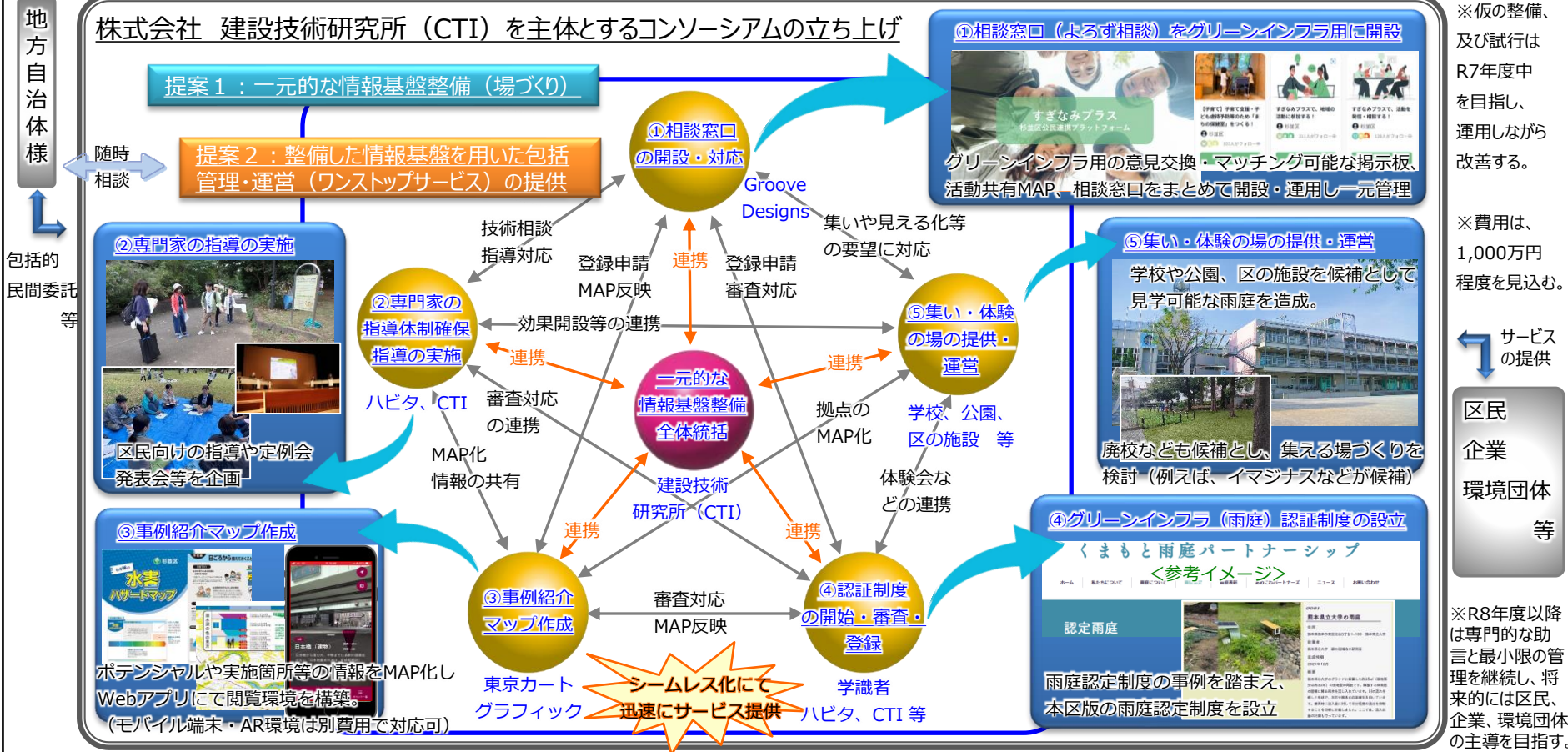
④登録申請についての審査

⇒区専用のグリーンインフラ認証制度への登録申請があった雨庭等を審査し、登録

⑤集える場・効果を体感できる場の維持管理・運営

⇒集える空間や雨庭等の実例を見て体感できる場の維持管理。浸透能を計測し、効果を見える化

◆提案するスキームの概念図



【先進性】

- ・グリーンインフラ（雨庭等）は自治体実装自体が先進的であり、これから多くの自治体での取り組みが進んでいく段階である。
- ・そのため、実装に必要な一元的な情報基盤整備や官民連携方法も確立されていない状況である。
- ・以上のことから、本提案にて情報基盤整備、包括管理・運営、多様な主体による連携を構築することは、自治体を対象とした今後のグリーンインフラ推進において非常に有用な先進事例になると考えられる。

【有効性】

- ・本提案は、実際に自治体から提案されたニーズに応えるものである。
- ・また、その具体的な内容は、グリーンインフラの推進の要であり、かつ興味のある区民から寄せられた生の声の要望に応えるものであり、欲しいサービスにクリティカルに応えることが可能である。
- ・以上のことから、本提案の整備、および運営の仕組みを構築することができれば、区民の要望にも合致した有効なサービス提供につながり、グリーンインフラの推進に貢献し得ると考えられる。

【汎用性】

- ・本提案は、東京23区のある自治体を想定したものであるが、該当する自治体と類似した条件下にある自治体は全国的に見ても多数存在する。
- ・また、グリーンインフラの自治体実装は、昨今の豪雨災害に対する流域治水対策への高まりを鑑みれば、多くの自治体で同様のニーズがあると考えられる。
- ・ニーズ、条件が合致していれば、本提案内容は十分に展開が可能であることから、本提案は汎用性も高いと考えられる。